

桜川(沢渡川)流域における浸水被害軽減プラン【茨城県水戸市】

流域の概要

- 桜川(沢渡川)流域では、近年多発する局地的豪雨により、浸水被害が生じている
- 近年では、平成24年5月豪雨により、流域内で床上浸水12件、床下浸水2件の被害、JR常磐線運転見合わせ等が発生
- 茨城県における時間雨量50mm以上の発生回数
 - ・昭和55年から平成21年までの30年間では、平均1.9回/年
 - ・平成22年から平成27年では、平均4.7回/年と時間雨量50mm以上の発生回数が増加傾向にある
- 河川・下水道の法定計画
 - ・河川(整備計画 1/5) ・下水道(事業計画 1/5)
- 浸水被害軽減プランで対象とする降雨
 - 平成24年5月豪雨 最大時間雨量56mm

浸水被害の主な要因

- 一気に河川に流入した雨水を安全に流せず、外水による浸水が発生することで、内水が適切に排水できずに浸水被害を拡大させている。
 - 排水能力を超える降雨の増加
 - 洪水を安全に流すための河川改修の遅れ
 - 都市化の進展や土地利用の変化などによる、流出量の増大
 - 流域における浸水対策を関係機関が一体となり、効果的に組み合わせ推進する必要がある。

桜川(沢渡川)流域の総合的な浸水対策について、茨城県・水戸市・企業等からなる「桜川(沢渡川)流域の総合的な治水対策検討会議」で検討し関係機関が対策を実施

桜川(沢渡川)流域の総合的な治水対策検討会議

組織	部局等
国土交通省	常陸河川国道事務所
茨城県	土木部河川課、都市局下水道課、公園街路課、水戸土木事務所
水戸市	下水道部下水道管理課、建設部建設計画課、河川都市排水課
企業等	JR東日本水戸支社、茨城大学



取組の概要

- 河川・下水道
 - ・沢渡川河道整備
 - ・下水道管渠の整備, 雨水ポンプの増強
- 流域対策
 - ・貯留浸透施設の整備(東町運動公園など)
 - ・住民の雨水貯留・浸透施設, 浄化槽転用施設の設置推進
- 危険周知・水防活動
 - ・水戸市HP, メールマガジン, LINE, ツイッター, 緊急速報メール, フェイスブック, FMラジオ等による防災情報の提供
 - ・洪水ハザードマップの周知
 - ・水位計の設置と水位情報の公表

取組の効果(目標)

平成24年5月降雨と同規模の降雨に対して、家屋の浸水被害の解消と線路冠水によるJR常磐線の運転見合わせの軽減を図る。